

# 第10回 阪神高速事業アドバイザー会議

## 議事概要

1. 日時：2020年10月16日（金） 10:00～11:30

2. 場所：中之島フェスティバルタワー会議室

3. 出席者：河合委員、正司座長、中浜委員、松坂委員、矢野委員

(50音順)

4. 議事要旨：

○「議事(1)前回議事概要」について事務局より説明。

○「議事(2)2019年度決算報告」「議事(3)2020年度の事業実施状況・トピックス」について、それぞれ事務局より説明後、委員より以下のとおり意見が出された。

\*リニューアルプロジェクトの事業意義訴求広報のテレビCMは、お客さまからの質問に阪神高速が応える形で親しみが感じられて、分かりやすい。

\*お客さまの視点に立って、関西発信の新たなお客さま満足向上施策を、「関西の方がええことしてるで」の気概で、どんどん打ち出してほしい。

\*大阪・関西万博に向けて、道路標識の図式化など、訪日外国人に分かりやすく道路案内を国際化していくことも必要ではないか。

\*交通事故原因を分析した上で、危険予測や危険回避行動に繋がる情報をお客さまに分かりやすく伝えることも必要ではないか。

\*逆走・誤進入による事故対策には、引き続き、しっかりと取り組んでほしい。

\*高齢者による交通事故防止に向けて、分かりやすく大きな文字で冊子やチラシ等で注意喚起することも考えられる。

\*速度回復誘導灯の渋滞緩和効果に示されるように、心理学や人間工学を取り込むことで、渋滞対策や走行快適性向上に向けた新たな取組みに繋がるのではないか。

\*中期経営計画の達成に向けて、KPIを設定してモニタリングしていくことは良い取組みであり期待している。手段が目的化しないことに留意して取り組んでほしい。

\*コロナ禍の下、年間の営業収益が半減したとしても、財務上は2～3年は耐えられる内部留保が、高速道路事業においても必要ではないか。

\*その他、ETC利用率の状況、直近の交通量の状況、交通事故削減に向けた交通安全対策の内容、高速道路事業とその他の事業の利益目標の考え方等に関して質疑応答があった。

—以 上—